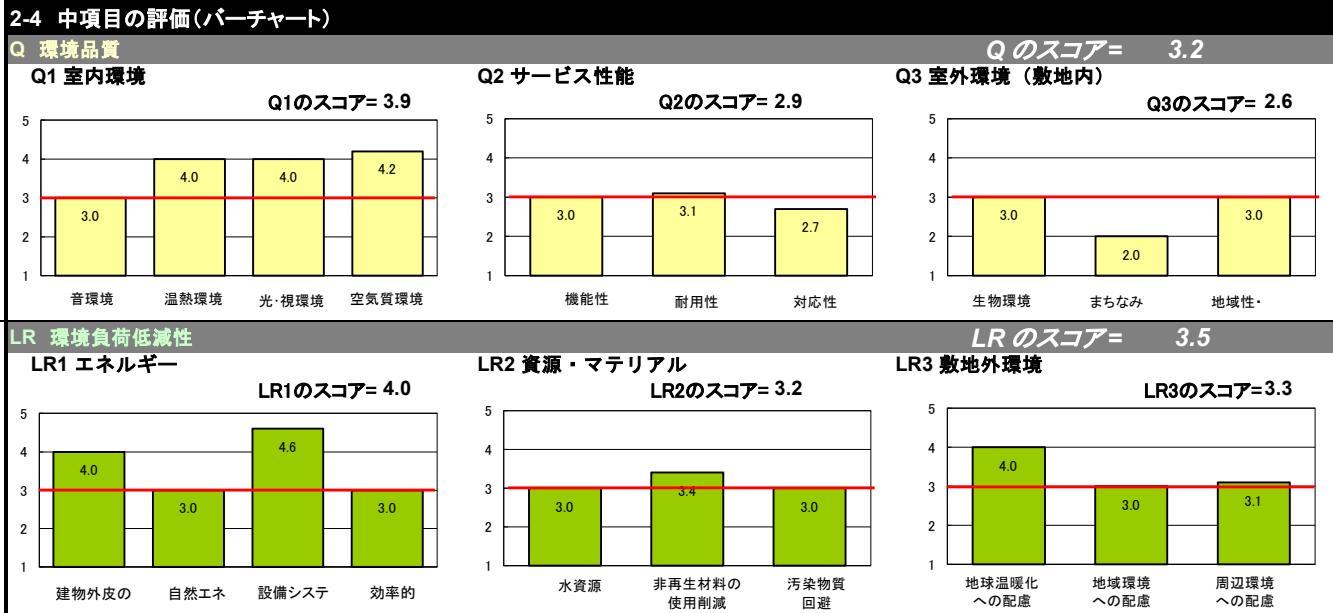


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 25019

建築物名称	清水台住宅新築第1号工事
建築主	川崎市長 福田 紀彦
建築物の所在地	川崎市宮前区菅生4丁目1439番1ほか
設計者氏名、建築士事務所名	白井 勇 株式会社ポロスデザインシステム 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,633.52m ²
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階
工事完了予定年月	令和10年7月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観		25019
建物名称	清水台住宅新築第1号工事	階数	地上5F	
建設地	川崎市宮前区菅生4丁目1439番1ほか	構造	RC造	
用途地域	第一種中高層住居専用地域・準住居地域、準防火地域	平均居住人員	115人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)	
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2028年7月 予定	評価の実施日	2025年8月25日	
敷地面積	6,251 m ²	作成者	株式会社ボロスデザインシステム	
建築面積	1,113 m ²	確認日	2025年8月25日	
延床面積	3,634 m ²	確認者	株式会社ボロスデザインシステム	



重点項目についての環境配慮概要			実績重点項目スコア合計/ 重点項目最高点のスコア合計 (5点満点)	重点項目への貢献点(注) (5点満点)	
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。				
緑の保全・回復(G)		Gの平均点		2.8	
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		2.2/4.3		2.5	
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8		3.0	
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点		3.4	
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」における等級5 カーテンと庇によりグレアを制御	5.0/6.4		3.9	
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.4/2.3		3.0	
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」における等級5 BEI:0.74	4.0/5.0		4.0	
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避		3.1/4.7		3.3	
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8		3.0	
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点		3.4	
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	劣化対策等級3、耐用年数の長い内装仕上材・配管材を使用	0.3/0.5		3.5	
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上材の分離が容易である	2.6/4.0		3.3	
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4		3.3	
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点		3.3	
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上		1.4/2.3		3.0	
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」における等級5 BEI:0.74	4.0/5.0		4.0	
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8		3.0	

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点

3.3

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要			実績スコア合計/ 最高点のスコア合計 (5点満点)	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点(注) (5点満点)		
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。					
建設段階						
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3	0.1/0.1		5.0		
修繕・更新・解体段階						
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2		3.0		
運用時のエネルギー						
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」における等級5 BEI:0.74	4.0/5.0		4.0		

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階									
配慮項目	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄				評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
		G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質											
Q1 室内環境											
1 音環境											
1.1 室内騒音レベル						-	0.15	3.0	1.00	3.0	
1.2 遮音						-	-	3.0	0.50		
1 開口部遮音性能						-	-	3.0	0.50		
2 界壁遮音性能						-	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0	0.30		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音						-	-	3.0	0.20		
2 溫熱環境						-	0.35	4.0	1.00	4.0	
2.1 室温制御						-	-	4.0	1.00		
1 室温						-	-	-	-		
2 外皮性能						-	-	4.0	1.00		
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-		
2.2 湿度制御						-	-	-	-		
2.3 空調方式						-	-	-	-		
3 光・視環境						-	0.25	4.0	1.00	4.0	
3.1 昼光利用						-	-	4.0	0.50		
1 昼光率						-	-	5.0	0.50		
2 方位別開口						-	-	3.0	0.30		
3 昼光利用設備						-	-	3.0	0.20		
3.2 ゲレア対策						-	-	4.0	0.50		
1 昼光制御						-	-	4.0	1.00		
3.3 照度						-	-	-	-		
3.4 照明制御						-	-	-	-		
4 空気質環境						-	0.25	4.2	1.00	4.2	
4.1 発生源対策						F☆☆☆☆建材をほぼ全面的に採用、VODの放散量が少ない	-	5.0	0.63		
1 化学汚染物質						-	-	5.0	1.00		
4.2 換気						-	-	3.0	0.38		
1 換気量						-	-	3.0	0.33		
2 自然換気性能						-	-	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮						-	-	3.0	0.33		
4.3 運用管理						-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-		
2 喫煙の制御						-	-	-	-		
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.9	
1 機能性						-	3.0	0.40	3.0	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ						-	3.0	0.57	3.0	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	3.0	1.00		
2 高度情報通信設備対応						-	-	3.0	0.40		
3 パリアフリー計画						-	-	3.0	0.50		
1.2 心理性・快適性						-	-	3.0	0.43		
1 広さ感・景観						-	-	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース						-	-	3.0	0.50		
3 内装計画						-	-	3.0	0.50		
1.3 維持管理						-	-	3.1	0.30		
1 維持管理に配慮した設計						-	-	3.0	0.50		
2 維持管理用機能の確保						-	-	3.0	0.50		
2 耐用性・信頼性						-	3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						-	3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						-	3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						-	3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						劣化対策等級3	5.0	0.20	-	-	
1 転体材料の耐用年数						-	2.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						-	4.0	0.10	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						-	3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						-	5.0	0.20	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						-	2.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						-	3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						-	3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						-	3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						-	3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						-	3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						-	3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						-	3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性						3.0	0.30	2.7	1.00	2.7
	3.1 空間のゆとり						-	-	2.4	0.50	
	1 階高のゆとり						-	-	2.0	0.60	
	2 空間の形状・自由さ						-	-	3.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり						-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性						3.0	1.00	-	-	
	1 空調配管の更新性						3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性						3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性						3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性						3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保						3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)							-	0.30	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出		G	W	H	-		3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		G			-		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮							3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		G	W	H	-		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		G	W	H	-		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー							-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			W	H		日本住宅性能表示基準『5-1断熱等性能等級5』相当	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			W	H	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			W	H		BEI:0.74	4.6	0.50	-	-	4.6
集合住宅以外の評価							-	-	-	-	
集合住宅の評価							4.6	1.00	-	-	
4 効率的運用							3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価							-	-	-	-	
4.1 モニタリング			W	H	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			W	H	-		-	-	-	-	
集合住宅の評価						3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			W	H	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			W	H	-		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル							-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			W	R			3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水							3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用							3.0	0.60	-	-	
1. 雨水利用システム導入の有無							3.0	1.00	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減							3.4	0.60	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減			W	R			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			W	R			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			W	R			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			W	R			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			W	R			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			W	R		躯体と仕上材の分離が容易である	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避							3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用							3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避							3.0	0.70	-	-	
1 消火剤			W				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			W				3.0	1.00	-	-	
3 冷媒			W				-	-	-	-	
LR3 敷地外環境							-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			W			消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮							3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止							3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W	H			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制							3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減							3.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制							3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制							3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制							3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮							3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止							3.0	0.40	-	-	
1 騒音							3.0	1.00	-	-	
2 振動							-	-	-	-	
3 悪臭							-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制							3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制							3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制							-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制							3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制						「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目を一部満たし、広告物照明を行っていない	3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策							4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策							3.0	0.30	-	-	

